

業界挙げ課題解決を（缶詰業界）

新年恒例の「缶詰業界新年賀詞交換会」が缶詰8団体（日本缶詰びん詰レトルト食品協会、日本加工食品卸協会、日本製缶協会、食品環境検査協会、日本鯖缶詰輸出水産業組合、日本水産缶詰輸出水産業組合、日本蜜柑缶詰工業組合、日本ジャム工業組合）の共催で1月8日（水）、東京大手町の経団連会館で開かれ370名が出席した。主催者を代表して日本缶詰びん詰レトルト食品協会の浦上博史会長（ハウス食品グループ本社社長）が「会員各社と手を携えて、さまざまな課題に向き合っていきたい。缶詰製品群は即食性があり保存性も高いことから、現在の食生活の変化に適合しやすい特徴を持っている製品。より簡便・より環境価値の高い容器の開発や多様な顧客との接点の開拓など、業界8団体が連携して様々な取組みを進めることで、新しい令和時代の缶詰食品業界をいままで以上に盛り上げていきたい」と力強く挨拶した。

続く来賓の挨拶では、塩川白良農林水産省食料産業局長が昨年の台風などの自然災害の被災地に対して、業界が行った食料支援に感謝の意を表明した。さらに、宇宙日本食として「やきとり缶詰」が認知されたことに触れ、「業界にとっては喜ばしい出来事だった。本年も飛躍の年になるように期待している」と強調した。

乾杯の音頭を取った國分晃日本加工食品卸協会会長は、「昨年は日本食糧新聞社の食品ヒット大賞の『大賞』がなかった。今年はぜひ多くのヒット商品を作っていただきたい。流通としても販売だけでなく、開発にも携わることでお役に立ちたい」とあいさつした。

中締めは、本多正憲日本製缶協会会長（東洋製罐社長）が行い、「皆さんとともに新しい変化、イノベーションを起こす年にしたい」と締めくくった。



主催8団体を代表して乾杯の挨拶をする國分晃会長

業界全体で持続的な発展を（東京）



挨拶をする酒類食料品業懇話会
国分勘兵衛会長

加工食品卸ならびに酒類・食品メーカーで構成される酒類食料品業懇話会は1月6日東京・中央区のロイヤルパークホテルで恒例の新年賀詞交歓会を開催。出席者は会員各社のトップら260社900人が出席した。冒頭に参加者全員で「君が代」と「1月1日の歌」を斉唱。続いて同会の国分勘兵衛会長（国分G本社（株））が挨拶し「東京五輪・パラリンピック大会の開幕まで今日でちょうど200日となった。オリンピックイヤーの今年が素晴らしい年となることを願っている」とした上で「昨年も自然災害が相次いだ。世界的に気候変動が大きくなり、その原因としてCO₂排出量の増加など、地球環境の変化が挙げられている。SDGsの取り組みが注目されているが、これを一過性のもの

ではなく、地球環境の将来を見据えて本気で取組んでいかなければならない時代になった」と警鐘を鳴らした。「量の拡大、シェアアップを迫るのではなく、伸びない部分は質で補うことを考えていく必要がある、再生産と持続可能な計画を立て、業界全体で持続的な発展につなげていきたい」と呼びかけた。

続いて今年の年男23人を代表して松沢幸一・明治屋社長が挨拶し「新年早々、国内外で多事多難が続く、今年も不安定な1年が予想される。酒類食品業界は昨年後半から減速気味で、消費増税や小売業の競争激化の影響も懸念される。今年の干支の子（ねずみ）は繁殖力が旺盛で真面目にコツコツとコミュニケーション力も豊かで環境適応力にも優れているという。厳しい環境だが、東京五輪の経済効果にも期待し、ぜひとも業界繁栄の年にしたい」と述べ乾杯の発声を行った。中締めでは同会の副会長である森山透氏（三菱食品（株））が「競争と協調が求められる時代になった。競争も大事だが、協力できる部分は互いに協調し、業界の発展につなげていこう」と万歳三唱で新たな年の飛躍を誓った。



中締めの挨拶をする
森山透副会長

製配販の連携を強化（大阪）

今年54回目を迎える新春恒例の「食品業界 新春名刺交換会」が6日、大阪市の太閤園で開催された。日本加工食品卸協会近畿支部、大阪府食品卸同業会との共催。近畿圏の卸やメーカーのトップを中心に177社、540人が集まった。



挨拶をする
岡本均近畿支部長

主催者を代表し、岡本均日本加工食品卸協会近畿支部長（伊藤忠食品社長）が「日本では今年のオリンピック・パラリンピック、2025年の大阪・関西万博など華やかな式典が次々と予定されている。一方、世の中にはさまざまな変化が起こっており、この潮流は今年も大きなうねりとして、われわれに大きく影響することが予想される。製配販の連携を強化し、対抗手段をしっかりと考えていかなければならない」と述べた。

乾杯は堀井一彦カゴメ大阪支店長が登壇し「今年は五輪が開催され、健康への意識はより高まることが予想される。2020年は食品業界を挙げて日本人の健康増進に取り組むとともに、大阪から世界に向けてさまざまな発信を始める年にしたい」と力強く乾杯の発声をした。

中締めは魚住直之大阪府食品卸同業会会長（伊藤忠食品西日本営業本部長）が「昨年から中一日配送を行う企業が徐々に増えている。当然、メーカーにおいてはコスト削減につながるが、卸にとっては負担がかかる。削減できたコストを卸とシェアするという考えをもっていただけたらありがたい」と呼びかけ締めくくった。



中締めの挨拶をする
大阪府食品卸同業会
魚住直之会長



新春名刺交換会 会場

業界の健全な発展に貢献（名古屋）

中部食料品問屋同盟ならびに中部食品製造協議会が主催する「令和2年新年賀詞交歓会」が1月6日、名古屋観光ホテルで開催された。約600名が参加し中部の食品業界の幕開けを告げる盛大な催しとなった。



挨拶する中部食料品問屋同盟
永津嘉人会長

開催にあたり中部食料品問屋同盟の永津嘉人会長が挨拶を行い、「今年も食品業界では人手不足による人件費や物流費の上昇が続くとみられ、業種業態を超えた競争は激しさを増し、自然災害への備えも必要となる。依然として厳しい状況にあるが、業界の健全な発展に向け一丸となって取り組んでいきたい」と述べた。続いて中部食品製造協議会の岡本嘉久会長の発声で乾杯が行われ、会場では令和初の新年を祝うとともに、年末年始の商戦の振り返りや今年の先行きの予想などを語る姿が散見された。

宴半ばで中部食料品問屋同盟の林清高常任理事が「2020年がスタートした。食品業界は人口減や高齢化、さらに人件費や物流費の高騰など厳しい状況にあるが、一丸となって難局に立ち向かい克服していきたい」と述べて中締めを行った。



新年賀詞交歓会 会場

業界挙げて課題に挑む（福岡）



挨拶をする
網田日出人支部長

日本加工食品卸協会九州・沖縄支部（支部長＝網田日出人・ヤマエ久野会長）の「新年交礼会」が6日、ホテル日航福岡で開催された。

網田支部長は「少子高齢化の進行に伴い消費構造は変化し、IT活用やキャッシュレス進展で顧客接点が多様化している。さらには、人手不足やフードロスなどの課題もある。これに立ち向かうには、業界を挙げた構造改革が不可欠。メーカーと卸が情報交換を行い、諸問題に対し連携して改善を目指すことが肝要だ」とあいさつした。味の素九州支社の白羽弘支社長は「加工食品業界を取り巻く環境は厳しい。プラスチック廃棄物、食品ロスなどの課題に対し、今まで

以上に製販配三層一体となり取り組んでいきたい。同時に、多彩な九州の食文化をみなさんと一緒に盛り上げていきたい」と続けた。

閉会あいさつで、コゲツ産業専務の本村陽一副支部長は「今年は東京オリンピックが開催される。5年、10年、20年先に、この五輪を日本人が振り返るときがやってくる。2020年はそういった年だ。『振り返ればいい年だった』といえるように頑張っていきたい」と締めくくった。



挨拶をする
味の素九州支社長白羽弘氏



挨拶をする
本村陽一副支部長



新年交礼会 会場

食品ロスを削減へ（札幌）



挨拶をする
布施和博北海道支部長

日本加工食品卸協会北海道支部が主催する「加工食品業界新年交礼会」が1月6日、開催された。布施和博日食協北海道支部長（日本アクセス北海道社長）が挨拶を行い、「昨年は5月1日に元号が令和に変わり、新たな時代の幕開けを期待させた。9月にはラグビーW杯日本で開催され4300億円ともいわれる経済効果に驚いた。東京オリンピック開催の今年は、札幌でのマラソン、競歩競技開催が決定し景気へのプラス効果を期待している。一方で食品ロス、15年度で実に646万tが廃棄されるに至っている。SDGsの17項目のゴールのうち、12番目の作る責任、使う責任では30年までに全世界の食料廃棄物を半減する目標が掲げられている。国内では昨年10月に食品ロス削減推進に関する法律が施行された。食品製造事業者に対しては賞味期限の年月表示化、賞味期限の延長化を、食品小売業者に対しては納品期限3分の1ルール緩和など商習慣の見直しを呼びかける運動が実施されている。今年は子（ね）年。子の字は植物が子孫を増やそうと成長し始める種の状態を表す。皆さんと一緒にまいた種がしっかりと根を張り、困難や変化にも耐えられる太い幹を伸ばし当協会理念でもある競争と協調を尊重しながら、実り多き業界、北海道の発展に向けともに歩んでいきたい」と述べた。

続いて高橋敏博賛助会員世話人代表（北海道味の素社長）は「4月24日白老にウポポイ（民族共生象徴空間）が誕生、外国人観光客も今後一層の増加が予想される。ウポポイは、大勢で歌うという意味のアイヌ語。この1年、北海道の食を盛り上げ、年末には大いに喜び歌とともに歌いたい。道内食品業界の発展を願う」との発声で乾杯した。

黒澤良一日食協北海道支部副支部長（国分北海道社長）は「混沌とした世界情勢が、日本、そして北海道にも何らかの影響を及ぼしている可能性もあるが、脇を締めて心を引き締めて生配販3層、しっかり業界の生き残りをかけて頑張りたい」と中締めした。



乾杯の挨拶をする
北海道味の素社長高橋敏博氏



中締めの挨拶をする
黒澤良一北海道支部副支部長



新年交礼会会場

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の 物流に係るご協力のお願い（賛助会員向け発信）

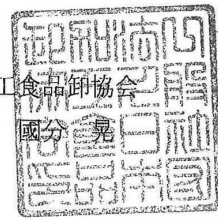
事務局発 第439号

令和2年2月吉日

賛助会員各位

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の
物流に係るご協力のお願い

一般社団法人 日本加工食品卸協会
会長



謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より弊協会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、わが国における本年最大のイベントであります「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」も開催まで5か月余りを残すところとなりました。大会期間中は選手や大会関係者等の道路利用により、首都高速道路では1日あたり約7万台の交通量が増加し、何も対策を施さなければ、首都高速道路における渋滞の悪化や、都心に向かう一般道における渋滞の発生が見込まれ、当該期間における物流体制の整備について、その準備が急がれております。東京都、国及び大会組織委員会からは、「2020TDM推進プロジェクト」として、大会開催時の交通量の抑制や分散、平準化を行う「交通需要マネジメント（TDM）」を推進し、円滑な大会輸送の実現と経済活動の維持との両立を目指す中で、具体的な目標及びその取組例が示されております。

これらの状況の中で、弊協会の会員企業各社もその対策と準備を開始しているところがありますが、その対応は商品の調達先であるメーカー様各位との連携の中で進めるべきことは言うに及びません。しかしながら、現状においては交通規制及び混雑の状況が今だ不透明なこともあり、お互いに詰め切れていないのが実態であります。このままの状況では私共のお取引先である小売業様・外食業様よりのご要望に対して、応えられなくなることも考えられます。

つきましては、小売業様・外食業様へ具体的なご案内、ご提案が出来るよう、早期に会員企業各社と具体的な協議を開始していただき、双方の事情を踏まえた課題の共有と対応策の策定をお願い申し上げる次第であります。大会期間中の物流が円滑に運営でき、大会が製配販各層にとって実り多きものになるよう、賛助会員企業様の格段のご協力をお願い申し上げます。

謹白

※ 協会のホームページに東京2020大会に向けたTDMの取組、交通マネジメントに関する詳細情報を掲載中ですので、ご参照ください。（<http://nsk.cocco.jp/>）

「食品表示法」経過措置期間終了に伴う 完全移行について（賛助会員向け発信）

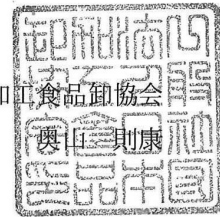
事務局発 第440号

令和2年3月吉日

賛助会員各位

「食品表示法」経過措置期間終了に伴う完全移行について

一般社団法人 日本加工食品卸協会
専務理事



謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より弊協会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、既にご承知のことと存じますが、2015年に施行されました「食品表示法」の新表示制度が5年の経過措置期間の終了に伴い、本年4月より完全移行となります。この制度は言うまでもなく、消費者が食品を摂取する際の安全性を確保するのが目的であり、私どもの販売先である小売・外食業からその適正な運用を強く求められているところであります。メーカー様各位に於かれましては既に十分な準備を為されているとは存じますが、新たな制度は大きな改正であると同時にその内容は多岐に亘るものであり、その対応に万全を期していただきたくお願いする次第であります。食品流通のサプライチェーンを担う責務を共有するものとして、弊協会会員各社も販売先に対して充分なる対応を果たしていく所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

※ 協会のホームページに「食品表示法」に関する詳細情報「新しい食品表示制度について」及び「食品表示基準Q&A」を掲載中ですので、ご参照ください。（<http://nsk.c.ooco.jp/>）

第47回 異業種交流委員会 開催

第47回異業種交流委員会が2月13日（木）午後3時より、今回の当番幹事団体である（一社）日本医薬品卸売業連合会会議室にて開催され、当協会からは奥山専務理事と時岡事務局長の2名が参加した。当委員会は各業種で中間流通を担う各団体が持つ課題の共有や様々な情報交換を行うことを目的として年2回定期的に開催されている。

[各団体からの報告事項]

1. 全国化粧品日用品卸連合会
 - ①化粧品日用品業界の物流データ連携について
 - ②全卸連主催ボウリングSSSカップについて
 - ③主要メーカーに関するアンケート調査について
2. 日本加工食品卸協会
 - ①2020年食品流通業界の課題
 - ②温度管理加工食品の販売に関するHACCP手引書について
 - ③異常気象時のトラック輸送中止目安について
 - ④加工食品食育推進協議会の設立について
 - ⑤食品ロス削減推進法の基本方針について
3. 東京医療用品卸商協同組合
 - ①返品実態と得意先との返品の対応について
 - ②第106回東京医療衛生用品フェアについて
4. 全国米穀販売事業共済協同組合
 - ①精米年月日表示の見直しについて
 - ②取引実態調査結果について
5. 日本医薬品卸売業連合会
 - ①新型コロナウイルス感染拡大に伴う医薬品・衛生材料等の緊急輸送への協力について
 - ②返品調査結果について
 - ③東京オリンピック・パラリンピックの医療品流通について

上記の中でも返品問題については各業種に共通する課題でもあり、様々な情報交換を含め活発に議論された。尚、次回は東京医療用品卸商協同組合が幹事団体となり、10月14日に開催される。